



古い時代の1を捨て 新しい時代の1を残す。 そのために常に進化する

若手の失敗は自分の責任 だからこそ指示は明確に

昔から私には楽観的なところがありました。困難な仕事にぶち当たったときに、当然全力を尽くすのだけれど、「たとえうまくいなくてもやむを得ない。私を選んだ人の責任だ」という一種の開き直りの境地で肩の力を抜いて仕事をしてきたように思います。

活動の場を私学に移した今も、そうした考えは変わりません。だからこそ、逆に、若い先生方の失敗はすべて、任せた自分の責任だと考えています。そのため指示は明確にする必要がありますし、「報連相」も求めます。

人材育成の観点からは、トップは大きな方向性を示し、あとは現場に任せ方が多い場合もあるけれども、本校は今、改革期にあります。スポーツでの輝かしい実績に加え、これからは進学面でも、生徒や保護者の期待に応えられるよう一丸となっているところです。生徒を育てる時間は3年ないし6年しかありません。先生方の成長をのんびり待つ余裕はありません。そのため今は、長年進学校で経験を積んできた先生方の力を借りて、教員を鍛えています。そうしたな

かで鍛えられた若く情熱的な20代、30代の先生方が、能力を備えた30代、40代へと成長し、自らの考えで動けるようになればひと安心。このような継続した教育ができるのも私学の強みといえるでしょう。

決断や実行の速さも本校の利点です。朝、教頭がもってきた提案をすぐに吟味し、理事長に相談すると、翌日にはコトが動き出すこともあります。また、同じキャンパスにある大学の教授に依頼すると、翌週にはタイムリーな高大連携講座を開いてもらうことも可能です。生徒にとって良いことはすぐに動くという気構えと体制を整えているのです。

スクラップ&ビルドを 繰り返しながら進化を遂げる

校長就任2年目の昨年度、50分6コマの時程を、45分7コマに変更し、時間数増加に加え、2コマ連続の90分授業を数多く配置しました。基礎学力を担保したうえで、読解力・思考力を伸ばし、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどの協働的な学びや探究学習に時間をかけて取り組むことが可能になりました。授業の5分短縮は、コロナ禍によって導入が一気に進

んだICT機器を活用することで解決しました。

また、コロナ禍で機会が減った国際交流をパワーアップするため、来年度からU.S.デュアル ディプロマ プログラムを実施します。日本にいながらアメリカの名門高校の卒業証書が取得でき、海外大学進学のを拓くこのプログラムに期待しています。

新たなビルドを始める一方で、スクラップもしなければなりません。例えば、45分7コマの授業導入により、これまで続けてきた隔週の土曜授業を来年度から廃止します。

数字上の遊びではありますが、毎年10%の変革を8年続けると、1.1の8乗となり2を超えます。つまり、古い時代の1を捨てても、新たな1が残るわけです。そうやって中身を進化させながら成長し続けるつもりです。

ささき・えいしゅう / 1958年生まれ。福井大学教育学部卒業。福井県立勝山高校、武生高校、藤島高校英語科教諭として進学指導に注力。「行ける大学ではなく、行きたい大学へ」が信条。教頭として赴任した進路多様校では、一人ひとりに寄り添った指導で退学者をゼロに。敦賀高校教頭、藤島高校校長ほか、福井県教育委員会では高校教育課の指導主事、参事、課長および学校教育幹を歴任。英語ディベートの普及や県立高校入試の英検加点制度の導入など、福井県における生徒・教員の英語力向上に寄与。2019年福井工業大学附属福井高校副校長。2020年より現職。